

(10) 九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移している。
- ・ 個人消費はやや弱含みとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる。

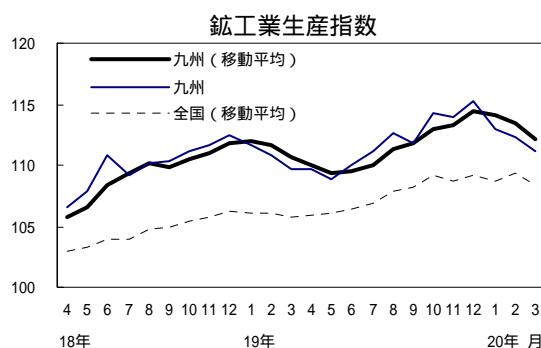
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移している。

電子部品・デバイスは、モス型計数回路（マイコン）、線形半導体集積回路を中心に減少している。輸送機械は、船舶が高水準の受注残を抱えフル操業を続けているものの、自動車が普通乗用車に反動減がみられたことから、全体でも減少している。一般機械は、中東向けの水管ボイラー、国内電力会社向けの化学機械において大型受注があったことから増加している。食料品・たばこは、焼酎が好調であったことから増加している。化学は、工業用触媒などが堅調でおおむね横ばいとなっている。



(備考) 1. 季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

3. 九州は12年基準、全国は17年基準。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

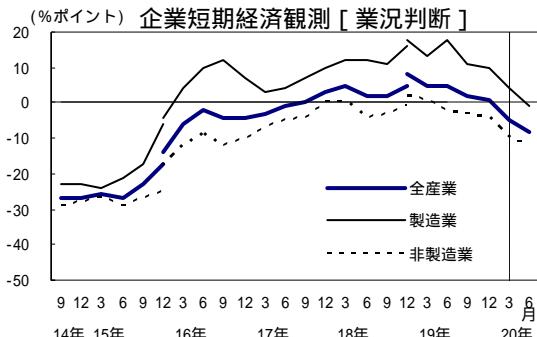
	付加価値 ウェイト	生産			在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	
電子部品・デバイス	14.9	6.9	2.0	1.8	44.2
輸送機械	11.7	17.8	8.5	4.0	14.8
一般機械	11.0	8.1	3.9	3.0	1.7
食料品・たばこ	10.8	4.3	2.9	1.8	3.6
化学	8.5	2.1	1.0	2.0	5.3
鉱工業	100.0	2.3	2.1	1.9	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

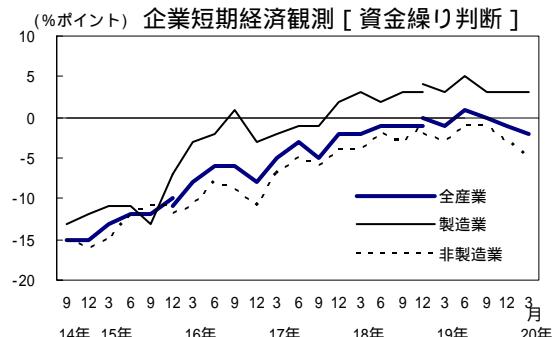
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

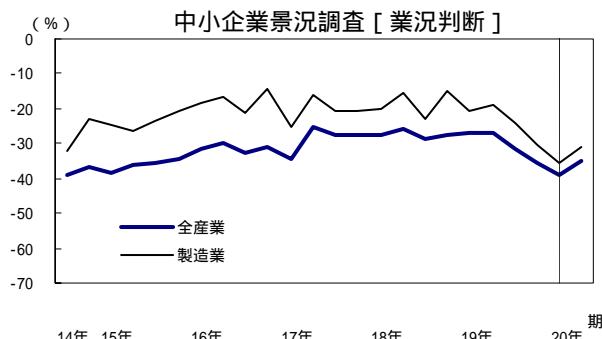
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

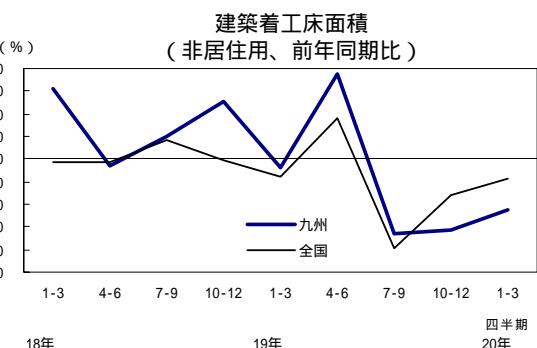
「新年度に入ったが、取引先の設備投資計画は、どこも厳しい状況を乗り切るため慎重かつ抑制された計画が多く、引き合い案件も非常に少なくなってきてている（その他サービス業[物品リース]）など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期經濟觀測調查 [設備投資 (3 月調查)]

		(前年度比 %)	
		19年度実績見込み	20年度計画
全 産 業		22.3(0.8)	6.3
製 造 業		36.1(4.3)	12.0
非 製 造 業		12.1(2.5)	1.2

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含みとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

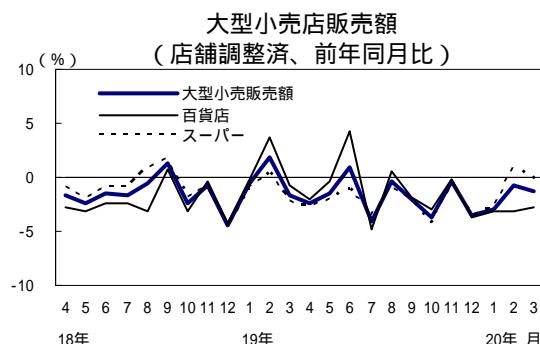
百貨店は、1月は、初売りは好調で飲食料品の一部に動きがみられたものの、気温が高めに推移したことから冬物の衣料品、身の回り品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

2月は、うるう年効果に加え、バレンタイン商戦や改装などが影響して飲食料品は前年を上回ったものの、気温が低めに推移したことから、主力の春物衣料の動きが鈍く、全体では前年を下回った。3月は、飲食料品は、ホワイトデーで和洋菓子などに動きがみられたものの、前年的一部店での閉店セールの反動に加え、天候要因から春物衣料の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の4月の売上高は前年同月比で6.1%減となっている。

スーパーは、野菜、精肉、総菜など飲食料品に動きがみられたものの、気温が高めに推移したことから衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「4月初旬より燃料油の価格が下がったことでガソリン等を購入する客が増加した。暫定税率復活を見越した4月末の仮需要が予想される(その他専門店[ガソリンスタンド])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



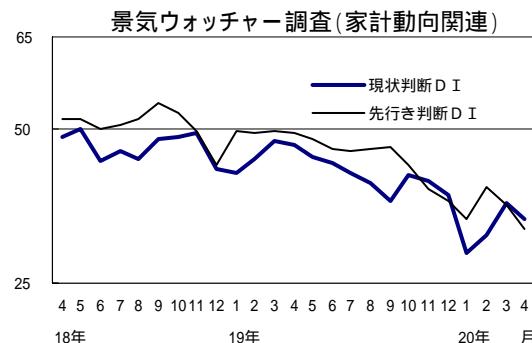
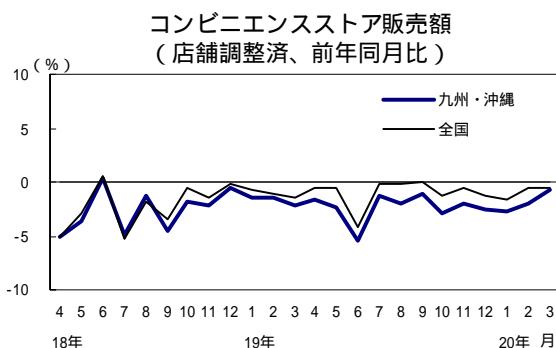
(前年同期比、%)

	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	1.0	2.3	2.7	1.7
百貨店	0.5	2.4	2.4	3.1
スーパー	2.0	2.2	2.9	0.8
コンビニ	3.2	1.5	2.5	1.8
景気ウォッチャー	45.9	40.8	41.1	33.6

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

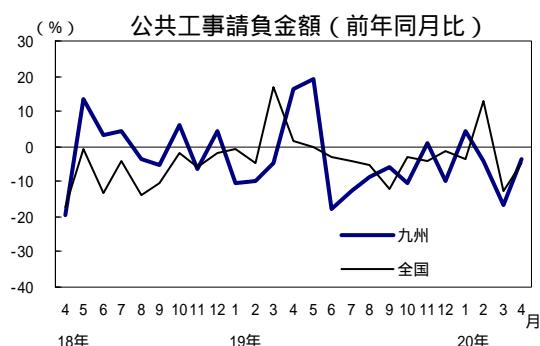
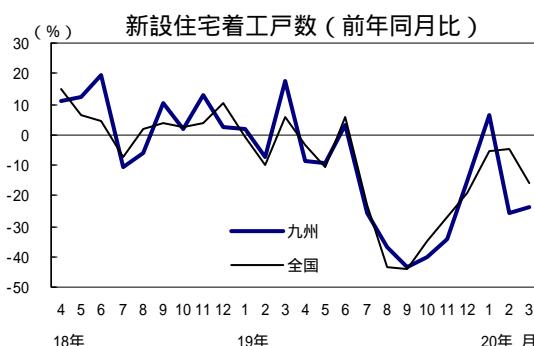
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計でみると前年度を下回っている。

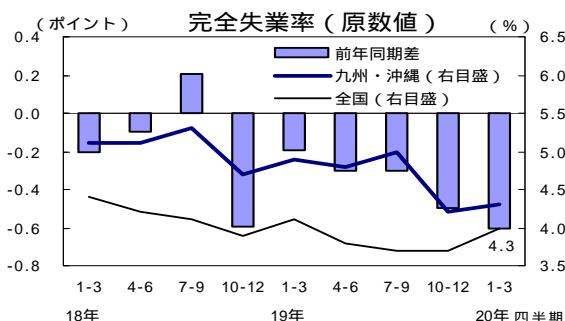
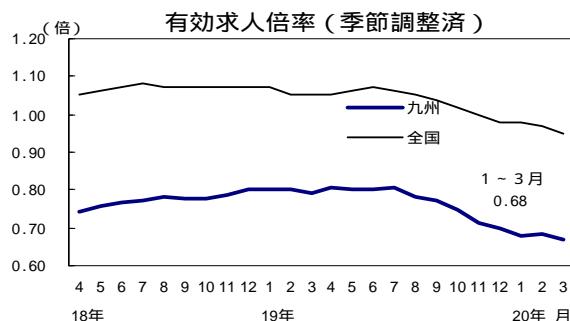


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、緩やかな改善傾向に一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

「派遣求人の依頼で、後任不要のケースが増加している。取引先は、事務派遣の補充は社内的人事異動や直接雇用化、業務縮小で対応している。その結果、3月末に派遣終了者が増大する一方、4月からの派遣開始者が伸び悩んでいる(民間職業紹介機関)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	326	321	310	313	103
(前年比)	14.0	19.3	10.3	16.8	21.2
負債総額	1,010	892	1,523	795	502
(前年比)	1.0	84.6	46.8	12.7	105.5

消費者物価指数



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・先月に引き続き、たばこ販売のタスポカード導入によりコンビニの来客数が伸びている。来客数は減る状況になく、売上も好調である(コンビニ)。

<先行き>

- ・現状から大きく落ち込むことはないが、韓国や国内での鳥インフルエンザの発生で、不安要素が出ている。必ずしも先行きは楽観できない(農林水産業)。

景気ウォッチャー調査(合計)

